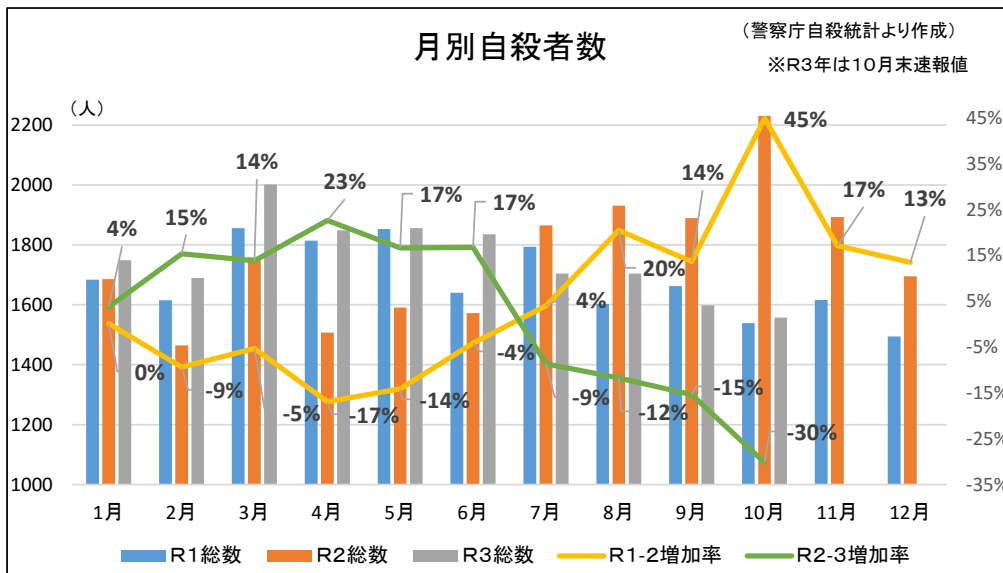


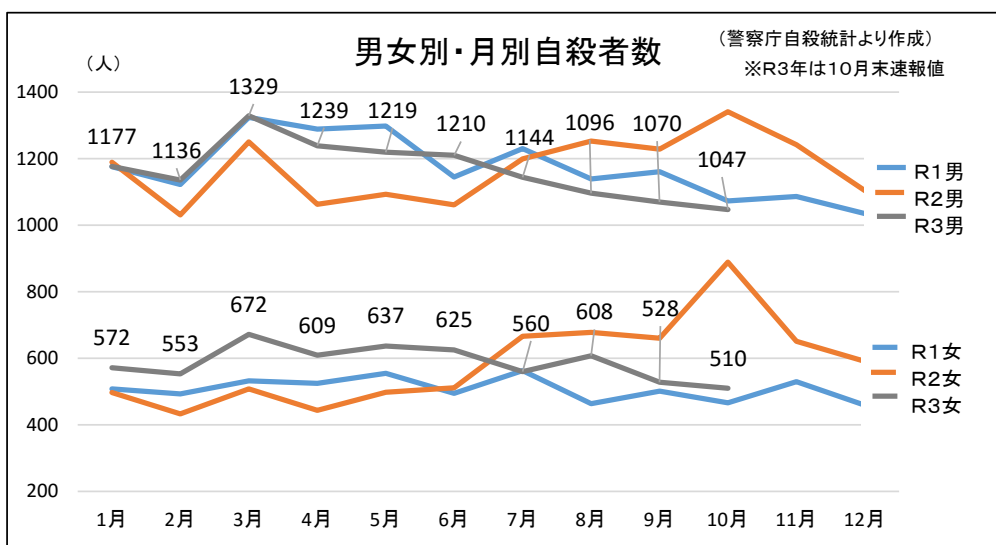
1. 自殺の状況と自殺未遂者支援の実態

資料2-①

(1) 国の自殺の現状

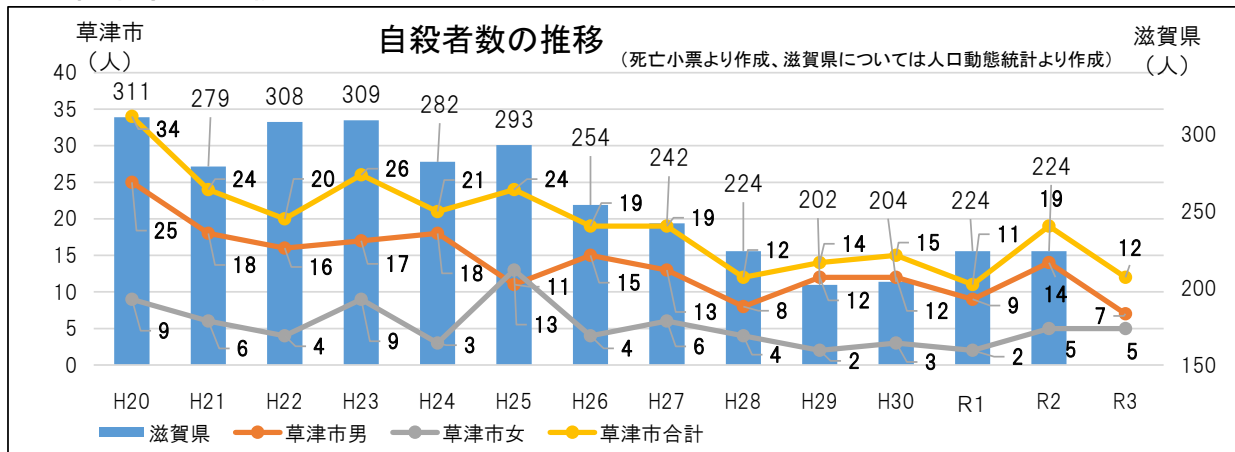


・R2年は、6月まではR1年と比べて減少傾向でしたが、7月以降は増加し、10月の増加率は45%と高くなっています。
 ・R3年は、6月まではR1年、R2年と比べて増加傾向でしたが、7月以降は減少傾向となっています。



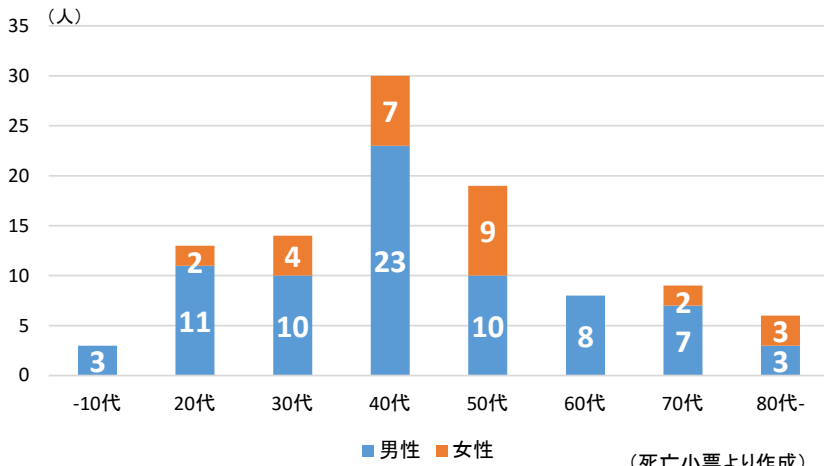
・R2年の前半は、男女ともにR1年を下回っていました。R2年の後半は、男女ともに増加し、10月は最も多くなっています。
 ・R3年の前半は、R1年やR2年と比べて男女ともに増加傾向でしたが、後半は減少傾向となっています。
 ・自殺者数は、依然として女性よりも男性が多いですが、R2年の後半からR3年の前半は、女性の自殺が増加傾向にありました。

(2) 草津市の自殺の状況



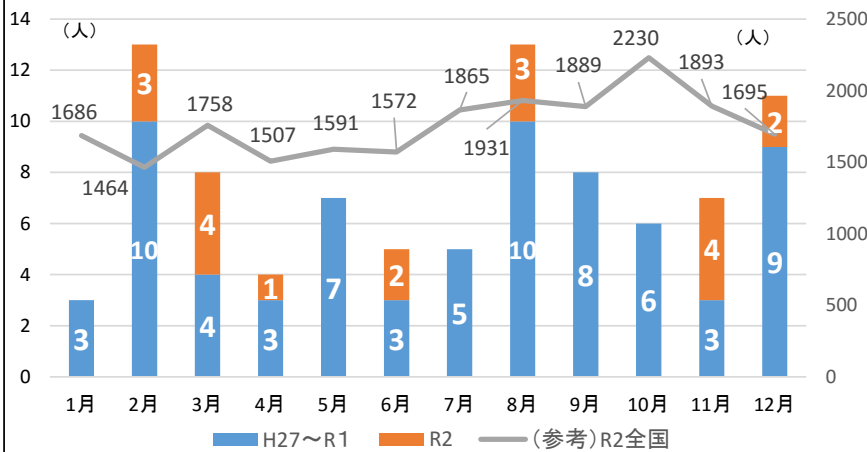
・草津市の自殺者数は平成21年から5年間の平均は23人、その後平成26年から5年間の平均は15.8人と減少傾向でした。平成28年以降、徐々に増加していましたが、令和1年は11人と最も少数となり、令和2年は19人と再び増加しました。女性の自殺者数は低く推移しています。
 ・令和3年1月から令和3年10月(令和3年11月把握時点)で、自殺者数は12人でした。

年齢階級別男女別自殺者数(H27～R3.10月)



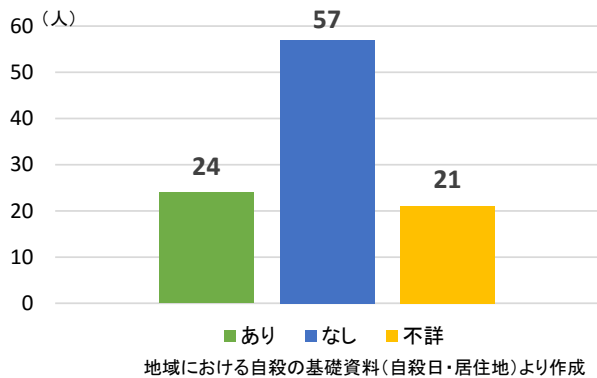
・年齢階級別男女別でみると、40代男性が最も多く、次いで20代男性、30代50代男性、50代女性が多い状況です。

月別自殺者数(H27～R2年)



・月別にみると、全国的には6月から徐々に増加し、10月に山がみられます。草津市においては、2月、8月、12月に多くなっています。

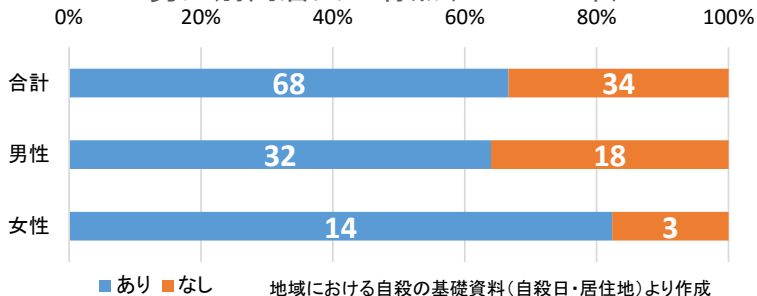
自殺未遂歴の有無(H27～R2年)



・自殺者の概ね2割の方に、過去に未遂歴があることがわかります。

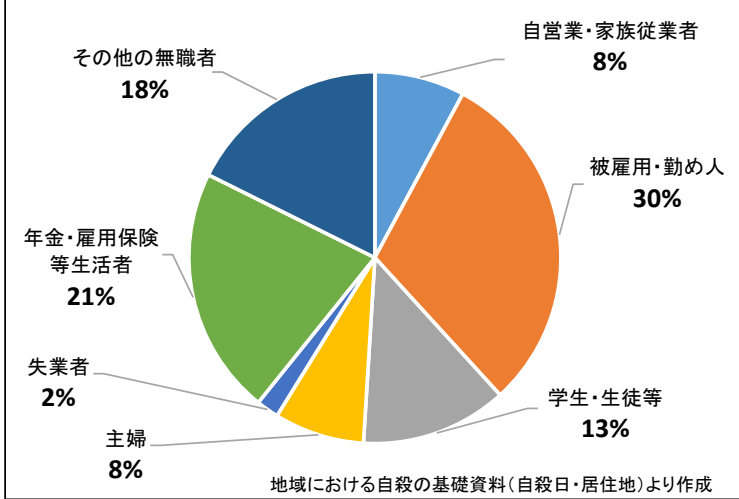
※ 地域における自殺の基礎資料
厚生労働省が毎年作成するもので、警察庁自殺統計のデータを基に、全国・都道府県別・市区町村別に再集計したものです。

男女別同居人の有無(H27～R2年)



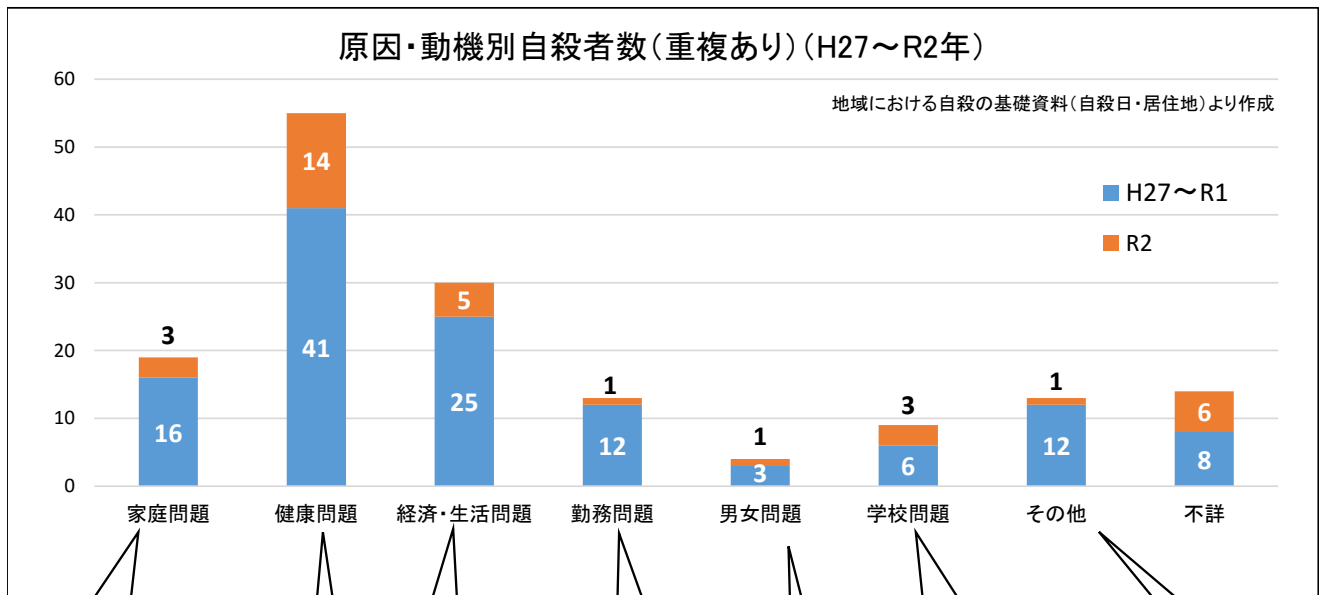
・全体の7割近くは同居人があり、女性においては、8割以上に同居人がありました。

職業別自殺者数(H27～R2年)



・職業別にみると、就労者が38%、学生・生徒の割合が13%となっています。

原因・動機別自殺者数(重複あり)(H27～R2年)



親子関係の不和
夫婦関係の不和
家族の死亡
家族の将来を悲観
家族からのしつけ・叱責
子育ての悩み
被虐待
介護・看病疲れ 等

倒産
事業不振
失業
就職失敗
生活苦
負債(多重債務・連帯保証債務) 等

仕事の失敗
職場の人間関係
職場環境の変化
仕事疲れ 等

結婚をめぐる悩み
失恋
不倫をめぐる悩み 等

入試・進路に関する悩み
学業不振
教師との人間関係
いじめ
学友との不和 等

犯罪発覚
犯罪被害
後追い
孤独感
近隣関係 等

病気の悩み・影響
(身体の病気・うつ病・統合失調症・アルコール依存症・薬物乱用・その他)
身体障害の悩み 等